ほんの10分でわかる

経済学って何？

講師 有 馬 秀 次

幸福

経済学

幸福な生活の実現

経済学とは、「幸福な生活の実現」を考える研究のことです。

幸福＝モノを消費することで得られる「満足」

幸福

＝

満 足

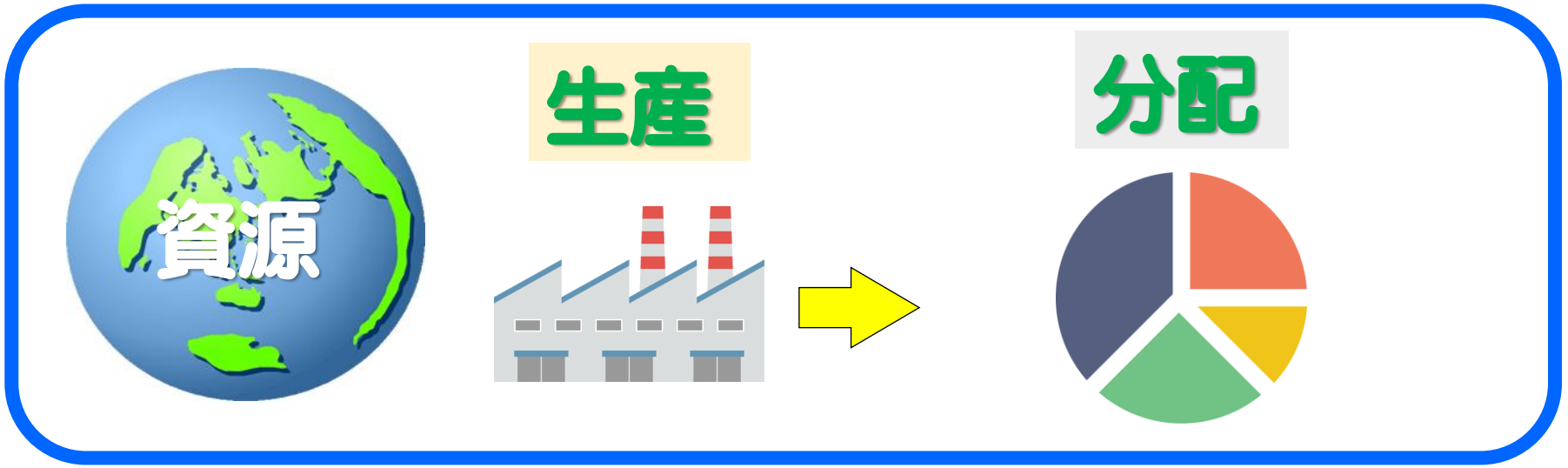
ここで言う「幸福」とは、モノを使う(消費する)ことによって得られる
日常生活の豊かさ(満足度)のことです。

経済体制

けいざいたいせい

経済体制

資源配分のしくみ



限られた資源（土地、資本、労働）から生活に必要なモノ（生産物）を生産して、それを生活者に分配するしくみのことを経済体制といいます。

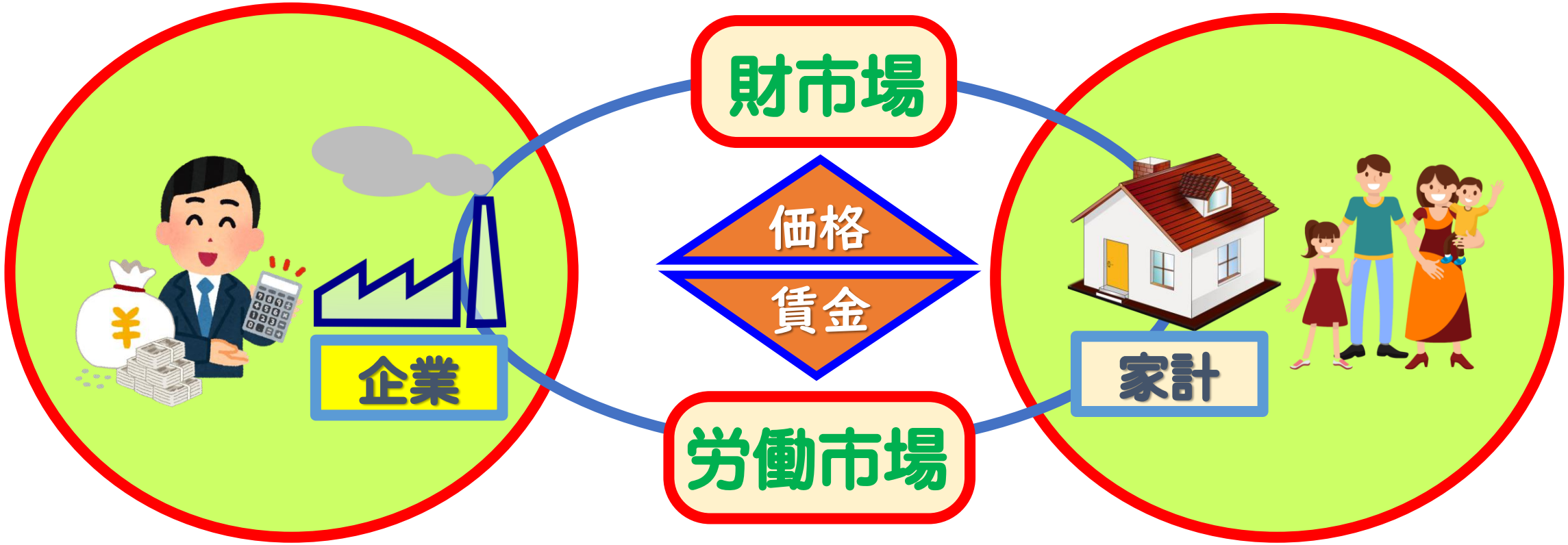
資本主義・市場経済

生産手段を私有する資本家がモノを生産して、それを市場で分配する経済体制のことを「資本主義・市場経済」といいます。

資本主義・市場経済

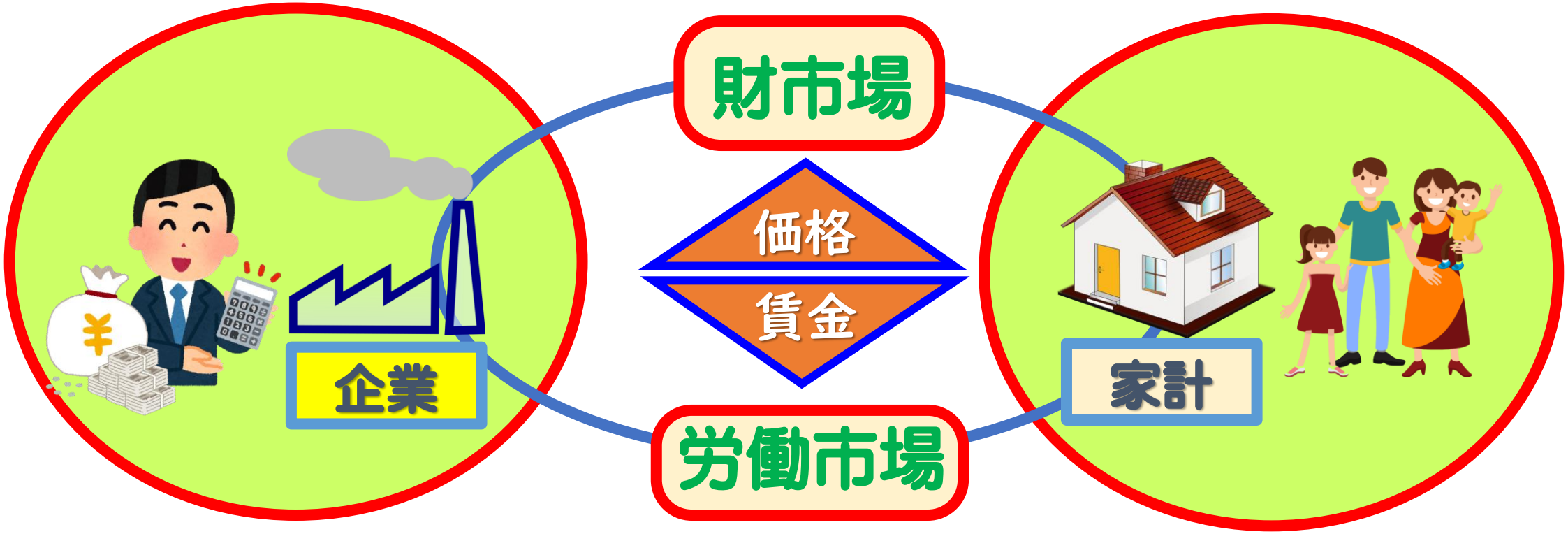
資本主義・市場経済は、多くの欧米諸国で採用されている経済体制です。

市場経済



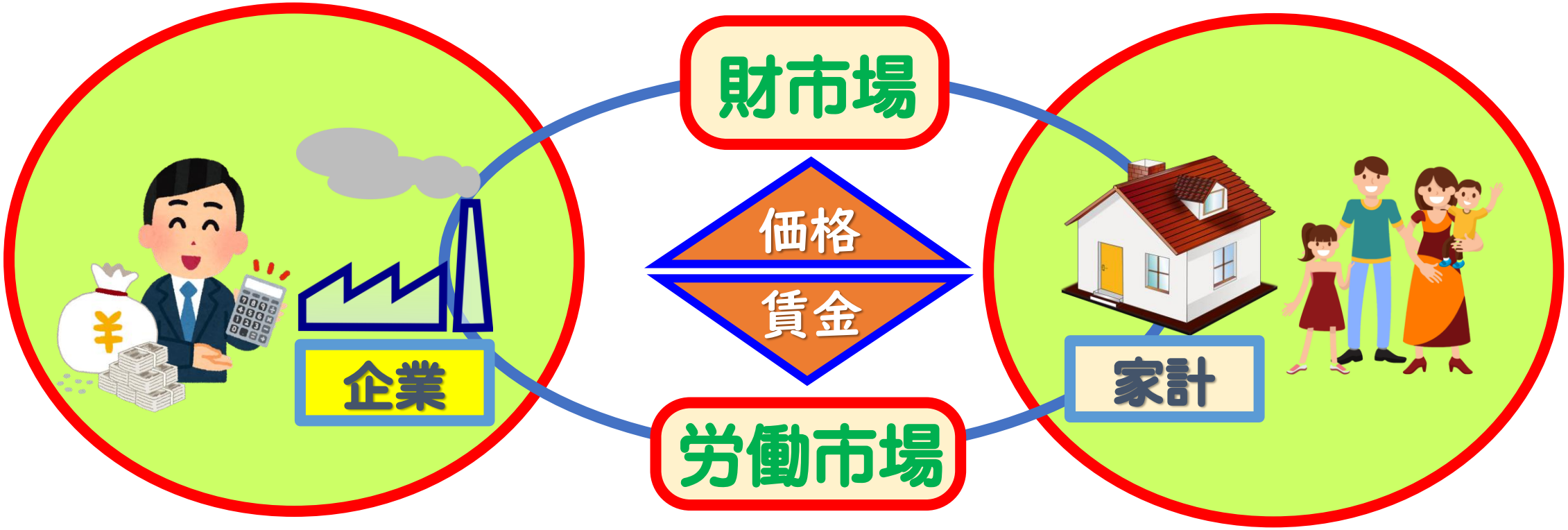
市場経済とは、企業と家計の間でモノ（財・サービス）と労働を市場で取引するしくみのことです。

市場経済



企業とは生産者のことを、家計とは消費者のことを表します。
「財・サービス」を取引する場のことを財市場と呼びます。
「労働力」を取引する場のことを労働市場と呼びます。

市場経済



財市場では、家計が需要者、企業が供給者です。労働市場では、家計が供給者、企業が需要者です。「労働力を売る」とは、家計の労働者が企業に雇用されて働くことです。

経済理論

けいざいりろん

アダム・スミス

（1723年 - 1790年）

アダム・スミスの学説

アダム・スミス

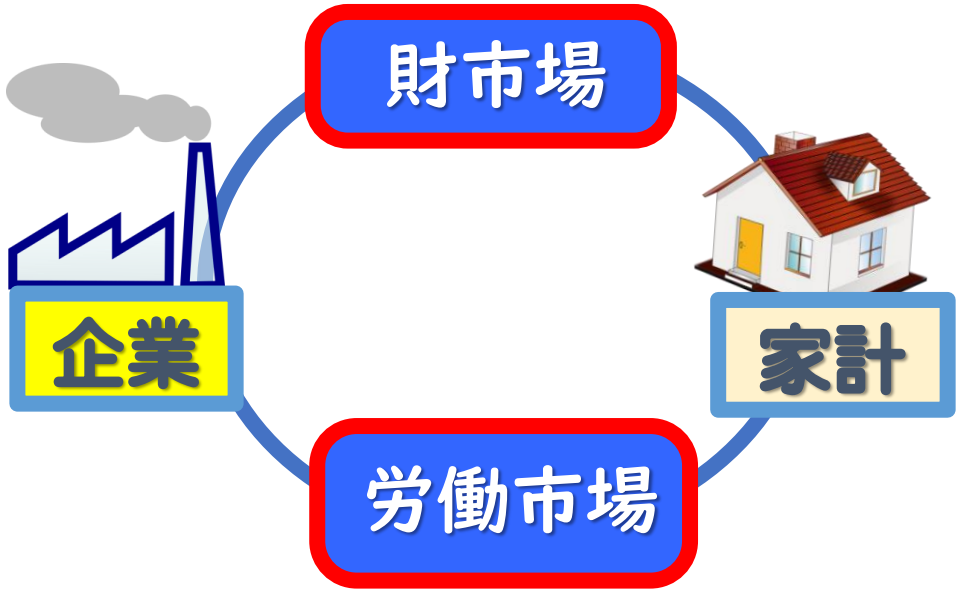
『国富論』1776年

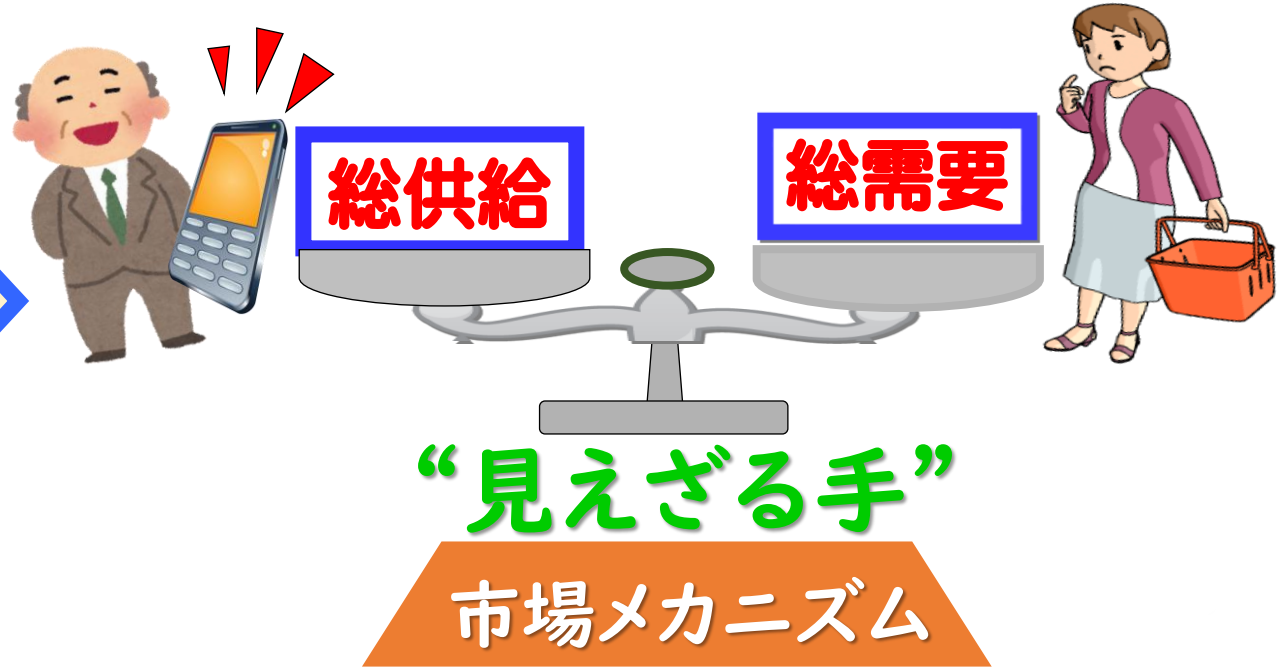
市場経済

アダム・スミスは、18世紀の英国の経済学者です。スミスは、1776年に『国富論』を出版しました。そこで「市場経済は、国民生活を豊かにする」という考えを発表しました。

市場経済

市場均衡



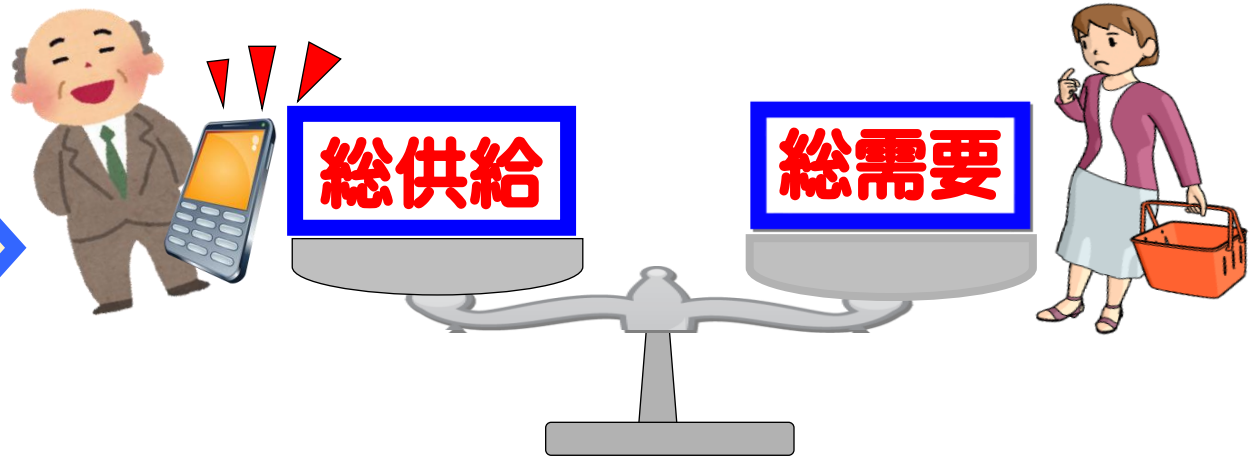


スミスの理論は、「市場経済体制のもとで、人々が自由にモノや労働の取引(交換)を行えば、“見えざる手”の働きによって、市場は均衡する」というものです。

市場メカニズム

供給＞需要 価格↓

供給＜需要 価格↑



需給の過不足の調整

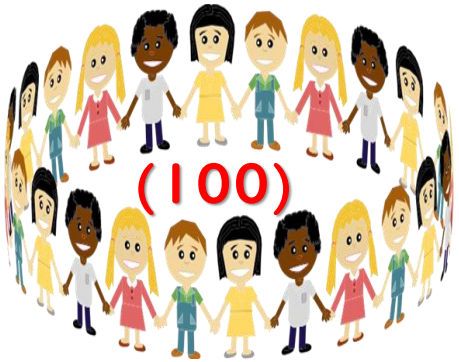
市場均衡

“見えざる手”とは、市場メカニズムのことです。市場では、人々が自由に取引を行うことで価格が動き、需給の過不足を調整し一致させます。この仕組みが市場メカニズムです。

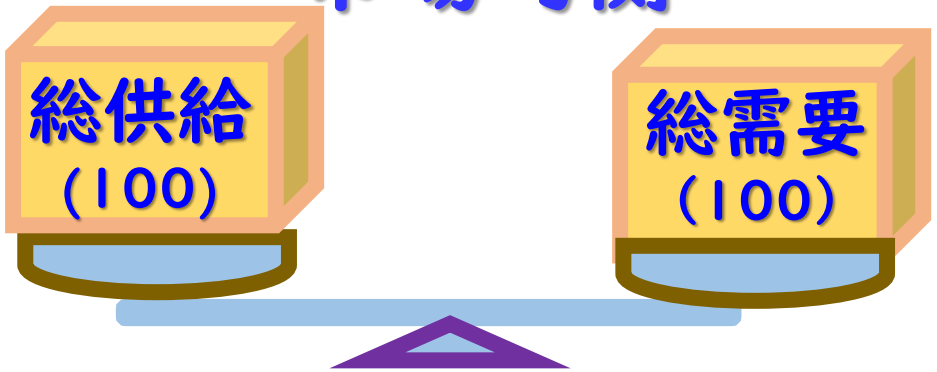
市場経済

最適

完全雇用



市場均衡



市場均衡とは、総需要が総供給に見合うように一致して、総供給(100)の水準で取引が成立することです。総供給の水準で均衡するため、総生産は(100)となります。労働市場は、完全雇用水準(100)で均衡します。

参考までに『国富論』を
要約すると、

国富論

アダム・スミス

要諦

① 労働価値説

② 均 衡 論

③ 分 業 論

国富論には3本柱となる理論があります。①労働価値説、②均衡論、③分業論です。

① 労働価値説

労働＝富

モノの価値は労働量で決まる

①労働価値説とは、モノの価値はモノを作るのに費やされる労働量で決まるという価値理論のことです。

② 均衡論

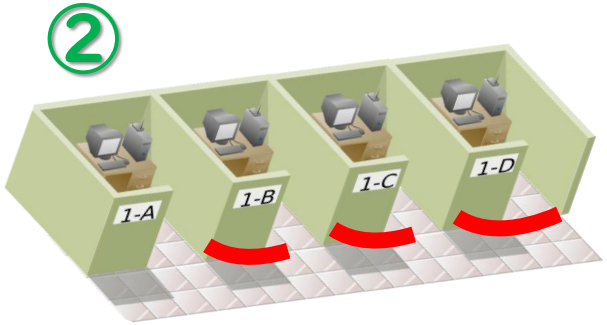
需要が供給に見合うように一致する

「見えざる手」の導き

② 均衡論とは、市場において「見えざる手」の導きで需要が供給に見合うように一致して価格が決定されるという学説のことです。

手分けして仕事をすると

③ 分業論



① 作業の熟練度向上
② 各作業間の移行時間の削減
③ 専用道具（機械）の発明

生産力増大 → **経済成長**

③ 分業論とは、分業が生産力を増大させるという学説のことです。分業すると、① 作業の熟練度向上、② 各作業間の移行時間の削減、③ 専用の道具（機械）の発明、などが作業効率を向上させます。つまり、経済成長（国富の増大）をもたらします。

国富論

要諦

① 労働価値説 → モノの価値

② 均 衡 論 → 見えざる手

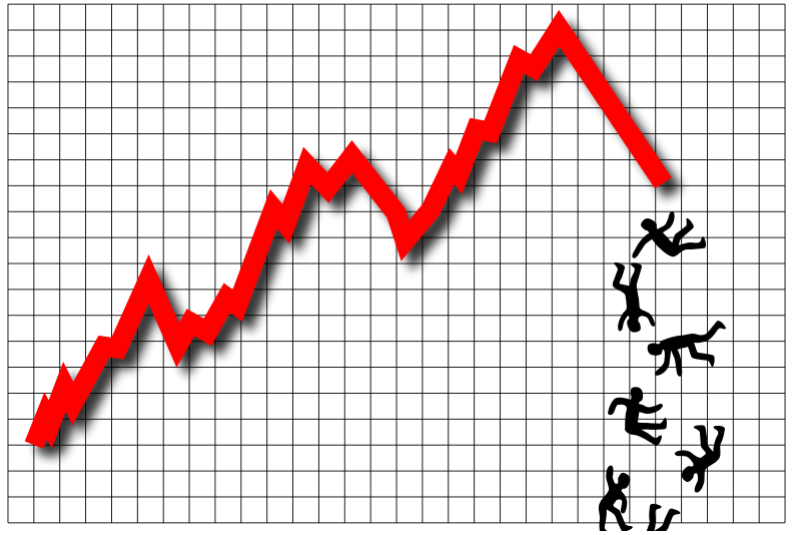
③ 分 業 論 → 経済成長

ジョン・メイナード・ケインズ

（1883年-1946年）

世界経済ニュース

ニューヨーク株式市場



1929年　大恐慌

株価大暴落

⇩

企業倒産

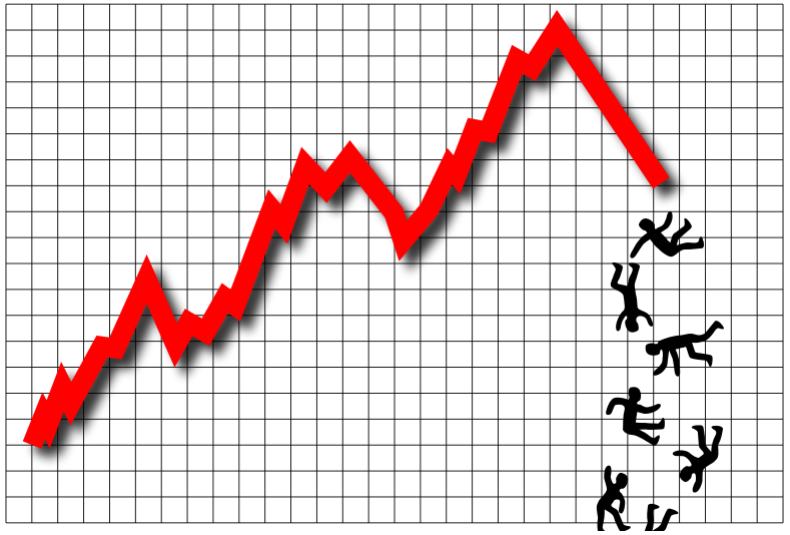
⇩

大量失業者

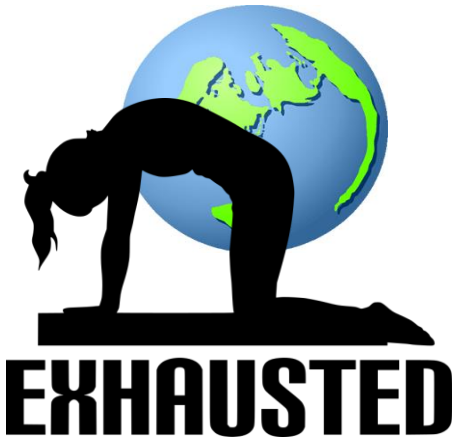
1929年に起こった長期間におよぶ世界的な不景気を大恐慌といいます。不景気とは、取引高が減少していく中で、多くの企業が倒産して失業者が町に溢れる状況のことです。

世界経済ニュース

ニューヨーク株式市場



1929年　大恐慌



株価大暴落

⇩

企業倒産

⇩

大量失業者

そこでこの大恐慌から経済を立て直す救済策を提唱したのが、
ジョン・メイナード・ケインズです。

ケインズの学説

『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936)

有効需要の原理 -（所得理論）

ジョン・メイナード・ケインズは、20世紀の英国の経済学者です。ケインズは、1936年に『雇用・利子および貨幣の一般理論』を出版しました。そこで「有効需要の原理」という所得理論を発表しました。

有効需要の原理

☆ 有効需要がGDPを決める

総供給(100)>総需要(80) ⇨ 総生産(80)

「有効需要の原理」とは、“需要がGDP(総生産)を決定する”という所得理論のことです。GDP(総生産)は、総需要の水準で過少均衡します。

過少均衡

総需要水準で取引成立

過少総生産量
(過少雇用GDP)

＝

過少均衡とは、総需要の水準で取引が成立することです。財市場では、商品が売れ残ります。労働市場では、過少雇用(求人の減少)状態で失業が発生します。

有効需要の原理

☆ 有効需要がGDPを決める

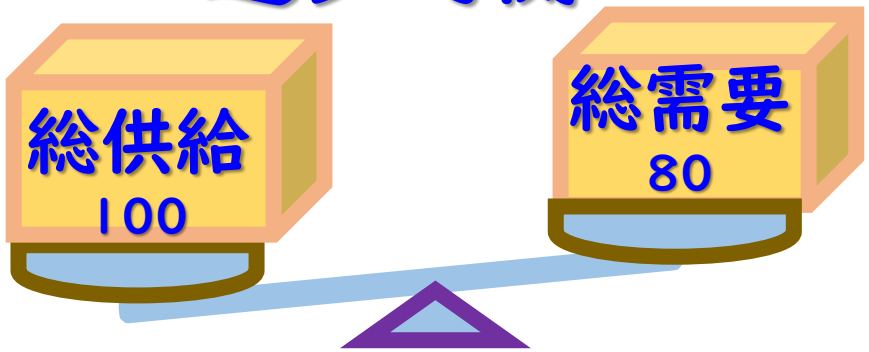
総供給(100)>総需要(80) ⇨ 総生産(80)

たとえば、需給関係が総供給(100)に対して総需要(80)であるとき、総生産は総需要(80)の水準に決まります。

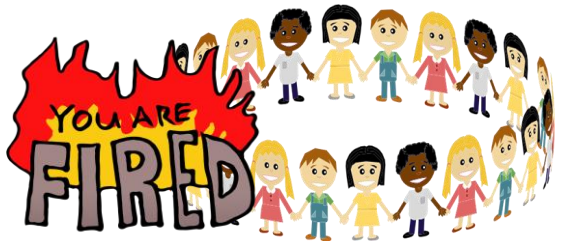
部分最適

市場経済

過少均衡



過少雇用



“需要がGDP(総生産)を決定する”とは、総需要(80)の水準で取引が成立することです。これが過少均衡です。総需要の水準で均衡するので、総生産は(80)となります。労働市場は、過少雇用(80)で均衡するため、失業(20)が発生します。

参考までに『一般理論』を
要約すると、

雇用・利子および貨幣の一般理論

要諦

- 有効需要の原理 --- 需要がGDPを決定
- 流動性選好説 --- 流動性選好が金利を高止まりさせる
- 乗数理論 --- 限界消費性向が乗数を決める

「有効需要の原理」とは、需要がGDP（総生産）を決定するという所得理論のことです。

雇用・利子および貨幣の一般理論

要諦

- 有効需要の原理 --- 需要がGDPを決定
- 流動性選好説 --- 流動性選好が金利を高止まりさせる
- 乗数理論 --- 限界消費性向が乗数を決める

流動性選好説とは、流動性選好が金利を高止まりさせるために需要が過少になるという利子理論のことです。

雇用・利子および貨幣の一般理論

要諦

- 有効需要の原理 --- 需要がGDPを決定
- 流動性選好説 --- 流動性選好が金利を高止まりさせる
- 乗数理論 --- 限界消費性向が乗数を決める

乗数理論はGDPが需要の乗数倍に決まるとする数理のことです。乗数は、限界消費性向で決まります。

経済政策

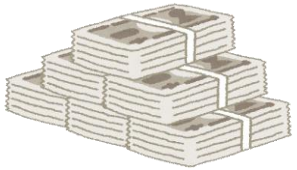
けいざいせいさく

不況の原因は、需要不足！

政府

経済政策

財政支出
(公共事業の拡大)



金融緩和

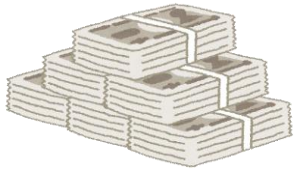
不況の原因は、需要不足にあります。需要不足を解消するには、政府が財政支出や金融緩和で需要を作ってやればよいのです。これがケインズの提案です。

不況の原因は、需要不足！

政府

経済政策

財政支出
(公共事業の拡大)



金融緩和

財政支出とは、公共事業などで政府が市場で買物をすることです。金融緩和とは、貨幣供給量を増やして、有効需要を増やす政策のことです。

まとめ

幸福

経済学

資源配分のしくみ

経済学とは、資源配分のしくみ(経済体制）を研究して、幸福な生活を送る方法を考える学問のことです。

アダム・スミス

ケインズ

市場に任せておけばよい！

でも、困ったときには、
政府が手助けする

誰がモノをつくって生活者に届けるのか？ アダムスミスは「それは市場に任せておけばよい」と提案し、ケインズは「でも困ったときには、政府が手助けする」と提案しました。

現在、多くの資本主義国では、民間が市場で資源配分を決める市場経済に、政府が調整をはかる計画経済の考え方を採用しています。これを混合経済といいます。

経 済 学

アダム・スミス

ケインズ

混合経済体制のもと、経済学の思想は、私たちの生活に活かされています。

では、また次回

制作 金融大学